

第666号

展示と催し物案内

# 東京国立博物館 ニュース

2004

7 8  
月号

対談「世紀の祭典 万国博覧会の美術」 2

薬師寺東京別院落慶記念 特別公開 国宝 吉祥天画像 6

夏休み子ども企画 親と子のギャラリー 文字・もじ・モジ / 親子講座 7

本館リニューアル 9月1日グランド・オープン 8

特集陳列 日本美術の精華 10

広重の東海道五拾三次画帖 / 銀銅巻太刀  
/ 周茂叔愛蓮図 / 金銀鍍宝相華唐草透華籠

平常展見どころ案内 2004年7・8月 12

楼閣人物螺鈿十角硯箱 / 広開土王碑 / 挂甲の武人など

INFORMATION コンサート・演劇 14

TOPICS / Who's Who in 東博 15

2004年7月・8月の展示・催し物 16



# 「世紀の祭典 万国博覧会の美術」

十九世紀にタイムスリップ ヨーロッパと日本、その衝撃の出会いと  
エネルギーシユな創造のときを体感できる、この夏話題の展覧会をめぐる特別対談



東京名所上野公園  
内国勸業博覧会美術館  
三代歌川広重筆  
東博の日本館が博覧会の  
会場になった

## 博覧会から生まれた博物館

**伊藤** 今日、特別展 万国博覧会の美術をめくって、十九世紀、万国博覧会の時代についてお話をうかがいたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。

**海野** 東京国立博物館はそもそも博覧会と深い関わりがあるでしょう。

**伊藤** そうですね、日本が初めて万博に参加したのは一八七三年のウィーン万国博覧会ですが、その前年、予行演習として、日本最初の博覧会が湯島の聖堂で開催されるんですよ。これが東京国立博物館の始まりとされています。一八七七年には第一回国勸業博覧会が現在のの上野公園で開催され、一八八一年の第二回国勸業博覧会では新築の博物館本館が博覧会の美術館として使われています。所蔵作品についても博覧会ゆかりのものがたくさんあって、万国博覧会に出品された作品が東博に収められています。まさに東博は博覧会の申し子なんです。その後博物館のあり方もかなり変わりましたが、今回は先祖帰りをいたしまして、ここ



海野 弘 (うんのひろし)

美術評論家  
1939年生まれ。早稲田大学文学部卒。  
美術、映画、写真、建築など幅広い分野の  
芸術文化論及び都市論を執筆。『アル・ヌーボーの世界』(中公文庫)、『四都市物語』(冬樹社)、『百貨店の博物史』(アーツアンドクラフツ)ほか

にね、たとえばこれはフィラデルフィア万博の写真ですが、こういう世界を再現しようと思ってるんです。

## かたちと装飾 二重化の時代

**海野** 十九世紀は万博の時代といわれているんですが、万博がどういう意味で

時代を象徴するようになっていったのか、非常に面白いところですね。というは、ちょうどそのときにひとつの近代化が始まっているんですね。ぼくは一八三〇年代をひとつの曲がり角とみているんです。そこでヨーロッパを中心とした近代都市が大きな転換期を迎えるんです。そのバックにはもちろん産業革命の結果というのがあるんですが、都市に二重化という現象がおこるん



伊藤 嘉章 (いとうよしあき)  
1957年生まれ。名古屋大学大学院修士課程修了。1989年より東京国立博物館。現在文化財部展示課平常展室長。日本陶磁史、近代工芸史を専門とする。「万国博覧会の美術」展企画委員

です。表と裏、二重になっている時代です。都市にまっすぐな大通りができ、それに面してファサードができるんですね。お店はみんなそつちへむかつて並ぶでしょ。ファサードができると裏通りができる。建物に表と裏がで



1876年 フィラデルフィア万国博覧会会場風景

## 展覧会の構成と主な出品作品

十九世紀後半、万国博覧会の時代、東西の文化が劇的に出会い、日本と西洋の美術は大きな変貌を遂げました。今回の展覧会は日本から出品された工芸作品の数々と、パリ万国博覧会を彩った西洋美術という二つの柱で、万国博覧会と美術の足跡をたどります。会場では、当時の万博会場の展示を再現、すさまじいまでのエネルギーに溢れた十九世紀の博覧会の世界をご覧いただきます。

## 1 万国博覧会 東西が出会った

東西が出会う場所、それがまさしく万国博覧会でした。西洋は精密な技巧によって作り出された日本の工芸作品に驚嘆の声をあげ、日本は西洋の技術や流行のスタイルを貪欲に吸収しました。ここではこの時代に生まれた、日本の輸出工芸の独特な造形をご紹介します。明治のエネルギーをしっかりと感じていただけることでしょう。いつばう、当時海を渡って万博会場に並べられた日本の古美術作品を紹介し、万博における、工芸史の輸出にも光をあてます。

### 主な作品

七宝諫鼓鶏形大太鼓  
明治六年(一八七三)頃  
メトロポリタン美術館蔵  
一八七三年ウィーン万国博覧会出品



襦袢蟹貼付台付鉢 宮川香山初代  
明治十四年(一八八二)  
東京国立博物館蔵  
一八八一年第二回国勸業博覧会出品

きるわけです。それまでの建物というのはいまの空間にぼんと建っていて、どっちが前、どっちが後ろっていうのがなかったんです。

**伊藤** なるほど、いわゆる「正面」がない状態だった。

**海野** ファサードにはガラスのショー・ウィンドウができて、金文字で飾ったガラスのドアをつける。これがいろんな意味で装飾の問題に関わってくると思っています。

**伊藤** ガラスというのは重要ですね。

**海野** この時代に板ガラスを大量生産できるようになったんですよ。それまではガラス自体がたいへん高級でしたし、都市には窓税というのがあって窓をそんなに大きくするわけにもいかなかった。で、いろんなものにファサードができて、表と裏の二重化という現象がおきると、たとえば器物でもかたちだけを分離することが可能になっていくんですね。

**伊藤** ものそれ自体と装飾を、分離することができるようになったということです。

**海野** そう、リフォームですね。ものそのものの構造が変化するのではなくて、かたちだけをとりだして装飾を替えるというわけです。

**伊藤** なるほど、先ほどのガラスでも



日本人物図扁壺  
クリストファー・ドレッサー  
ミントン社 1876年東京国立博物館蔵

**海野** でも、日本の反響は他の国にくらべると大きかったんですよ。もちろんヨーロッパが日本に求めたのは産業的なものではなく、東洋の珍奇なものだったんですよ。ウィーン万博のあとで

違う金文字をはりつけて違うガラスにするということですね。これは展覧会に出品される作品で、ドレッサーがデザインしたというミントンの壺です。中国のかたちトルコの青で日本の絵を描いている。いろんな国の違う文化をひとつにしてしまっているんですよ。今のお話聞いていてね、二つ一つのことなのか。

**海野** そう、かたちだけを取り出して考えられるようになったおかげで、どんなものに何を描いてもよくなったんですよ。それまではこの窯場でもそこに伝わる文様があつて、もう迷いなくそれを描いていた。ところが、なんでも使えるようになると、何を描くか選択が必要になる。そこで、スタイルとかデザインという問題が出てくるんです。どうかすると、いろんなものをミックスしたようなものになってしまったりしてね。

**伊藤** もう、ごちゃ混ぜですね。

**海野** 十九世紀はこの二重化という問題を抱えていた時代なんですよ。

**伊藤** さて、我が国ですが、一八七三年のウィーン万博に国として初めて正式に参加するんですね。

**海野** 維新のあと間もない頃でしょ。

**伊藤** なにがなんだかわからないわけですよ。

**海野** でも、日本の反響は他の国にくらべると大きかったんですよ。もちろんヨーロッパが日本に求めたのは産業的なものではなく、東洋の珍奇なものだったんですよ。ウィーン万博のあとで

彼らは日本のこと

をこんなふうに言っているんです。「日本はとて面白かった。精力的に動き回っていた日本の使節団が、万博から新しい技術を持ち帰り、次の万博までに日本が妙に工業化されてしまったら困る。」

**伊藤** ウィーンには伝習生としていろんな人が行っているんですよ。たとえばやきものの伝習生が石膏型を勉強しに行くとか。

**海野** 人間が行ったというのは大きいですが、だて、ほとんどのヨーロッパ人は日本人を見るの初めてだったんですよ。

**伊藤** この展覧会の第一のテーマは東西の文化の出会いです。日本が何をどう陳列し、ヨーロッパはそれをどう評価したのか。日本人はヨーロッパの何をどう取り入れたのか。

**海野** 双方の出会いを見ようということですね。

**伊藤** 日本は、当時の、つまり明治の美術・工芸作品をたくさん出品しているんですよ。ところが今これらの作品を見ると、私たちの多くは距離感のよくなものを感じて思っていますよ。なぜかという、ヨーロッパ人のために作られているからなんですよ。そこにヨーロッパ人の喜ぶ珍奇な部分や、ヨーロッパの求めに応じようと変質させてしまった部分があるのではないかと。

**海野** ヨロッパでかたちと装飾が分離しているんな装飾が自由に加えられるようになった、その段階で、日本はヨーロッパとヨーロッパを知って、装飾こそ全部、その面白さにすっくと入って、新しいものをどんどん作り出していくんですね。

**海野** 江戸後期の工芸で根付がありまして、あれがすごいのは、あの小さなものの中にいろんなパターンをくっつけるんです。見たこともないような外国の動物や風俗も取り込んでしまつた。あの想像力が明治につけつがれているのではないですか。

**伊藤** いっぱいで、日本は、工芸史の輸出「みたいなことをしているんですよ。たとえば一八六七年のパリ万博には平安時代の蒔絵の手箱から始まって鎌倉・室町・桃山・江戸にいたる漆のコレクションを出しているんですよ。実はそれが東博の漆工芸のコレクションの根幹になっているんですよ。有名な光琳の八橋時絵の国宝の硯箱も、実は万博でフランスに行つて帰ってきたものです。一八七六年のフィラデルフィアの博覧会では、縄文土器からはじめて明治時代にいたるまでの日本陶磁の歴史をたどる作品ワンセットを出しています。このセットはそのあとロンドンのヴィクトリア・アンド・アルバートの美術館の所蔵品になっていっているんですよ。輸出工芸品と古美術……、何が喜ばれているのかだんだんわからなくなっていくような感じがしますね。

**海野** つまらないものと思つていたり、評価されたりして、再発見しているんだと思いますよ。今もそういうことが続いていますよ。第二次大戦前のノリタケのアル・テコなんてね、日本でもまったく忘れられていたのがアメリカでコレクションされて、今逆輸入されている。

**伊藤** すごく人気あるみたいですね。



扇散時絵手箱  
室町時代・15世紀  
東京国立博物館蔵  
1867年パリ万博出品

なものの中間にいろんなパターンをくっつけるんです。見たこともないような外国の動物や風俗も取り込んでしまつた。あの想像力が明治につけつがれているのではないですか。

**伊藤** いっぱいで、日本は、工芸史の輸出「みたいなことをしているんですよ。たとえば一八六七年のパリ万博には平安時代の蒔絵の手箱から始まって鎌倉・室町・桃山・江戸にいたる漆のコレクションを出しているんですよ。実はそれが東博の漆工芸のコレクションの根幹になっているんですよ。有名な光琳の八橋時絵の国宝の硯箱も、実は万博でフランスに行つて帰ってきたものです。一八七六年のフィラデルフィアの博覧会では、縄文土器からはじめて明治時代にいたるまでの日本陶磁の歴史をたどる作品ワンセットを出しています。このセットはそのあとロンドンのヴィクトリア・アンド・アルバートの美術館の所蔵品になっていっているんですよ。輸出工芸品と古美術……、何が喜ばれているのかだんだんわからなくなっていくような感じがしますね。

**海野** つまらないものと思つていたり、評価されたりして、再発見しているんだと思いますよ。今もそういうことが続いていますよ。第二次大戦前のノリタケのアル・テコなんてね、日本でもまったく忘れられていたのがアメリカでコレクションされて、今逆輸入されている。

**伊藤** すごく人気あるみたいですね。

**海野** つまらないものと思つていたり、評価されたりして、再発見しているんだと思いますよ。今もそういうことが続いていますよ。第二次大戦前のノリタケのアル・テコなんてね、日本でもまったく忘れられていたのがアメリカでコレクションされて、今逆輸入されている。

**伊藤** すごく人気あるみたいですね。

**海野** つまらないものと思つていたり、評価されたりして、再発見しているんだと思いますよ。今もそういうことが続いていますよ。第二次大戦前のノリタケのアル・テコなんてね、日本でもまったく忘れられていたのがアメリカでコレクションされて、今逆輸入されている。

**伊藤** すごく人気あるみたいですね。

**海野** つまらないものと思つていたり、評価されたりして、再発見しているんだと思いますよ。今もそういうことが続いていますよ。第二次大戦前のノリタケのアル・テコなんてね、日本でもまったく忘れられていたのがアメリカでコレクションされて、今逆輸入されている。

**伊藤** すごく人気あるみたいですね。

## 2 工芸を「ART」に 二十世紀工芸への道

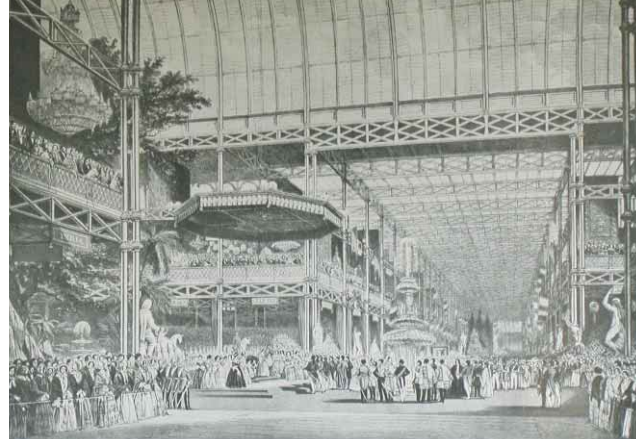
時代の流れは工芸の役割を確実に変えました。かつて最大の輸出品であった日本工芸は、十九世紀末には国の力を示す「ART」としての役割を担いました。ここでは日本の美術の水準を世界に問うた一八九三年シカゴ万博に焦点をあて、さらにアル・ヌーヴォーの博覧会」とも言われた十九世紀最後の祭典、一九〇〇年パリ万博を展望します。二十世紀に向けてこれまで以上に多様な展開を示す日本の工芸作品をご覧ください。

### 主な作品

- 執金剛神立像 岡崎雪声  
明治二六年(一八九三)
- 早稲田大学會津八一記念博物館蔵
- 一八九三年シカゴ万国博覧会出品
- 日光祭礼園綴錦壁掛  
川島甚兵衛(二代)  
明治二六年(一八九三)
- シカゴ・フィールド自然史博物館蔵
- 一八九三年シカゴ万国博覧会出品



© The Field Museum, #A112796c



1851年 ロンドン万国博覧会 水晶宮内観  
「The Great Exhibition of 1851」  
Victoria&Albert Museum 1950刊より

**海野** そう、再評価されていますね。当時の日本も、万博に参加することで自分の歴史を勉強していたんだと思うんですよ。

## アートの行方

**海野** 話は少し遡るのですが、博覧会といえば、殖産興業が鍵。それで大成功したのが一八五一年、鉄とガラスの水晶宮のロンドン博です。大英帝国の威信を示す万博でした。

**伊藤** 産業革命の成果を示した博覧会ですね。

**海野** だから、アートの影は薄かったんです。そこで、ロンドン博への批判ができて、大量生産されたものは醜い、アートはどこにいったんだ、というところになったんですよ。

**伊藤** 大量生産に対する疑問ですね

**海野** それから、機械で作ったものに無理やり装飾を貼り付けて、それが非常に醜かった。伝統的なものと新しいものの接合具合がどうも上手くいかなかったですね。さらにこの頃、アートが技術と芸術に分離してくるんです。美

術自体の性格が変わってしまったんですね。つまり、十八世紀までは注文生産ですよ。

**伊藤** 王侯貴族など、パトロンの求めに応じて作っていた。

**海野** 十九世紀になると職人がギルドや主人を失って町に放り出されるわけですね。それで初めて近代画家っていうのが出てくるんです。近代画家とは何かというと、主人の注文のテーマで描かなくていいという意味で自由である。しかし、その描いた絵が売れるかどうかの保障はない、つまり飢える自由もある、ということなんです。そのなかで、美術自体がフライン・アートとレッサー・アートあるいはアブライド・アート、日本語では工芸ですか、いわゆるアカデミックな美術とそうじゃない実用性をもつ美術に分離して、工芸は一段低いものになってしまったんです。

**伊藤** 日本はヨーロッパに出会うたとき、その二重構造に驚くんですよ。

**海野** ヨーロッパから見ると、ヨーロッパというのはかつて、全世界だったんですよ。それが一気に壊れる。アートもいろいろなものが入ってきて、ああ、そうだからこういうものがあつた、これもアートって見えるんだって気付いた。これが万博のショックだったんです。

## 目指せ、美術の仲間入り

**伊藤** 日本が、アートの二重構造をいちばん強く意識したのは一八九三年のシカゴ万博でしょうね。

**海野** アメリカが経済的にも大きな力を蓄えてきたときの万博です。このときの日本館は、非常に大規模なもので評判がよかったですよ。

**伊藤** 会場に大きな池があつて、中州に鳳凰殿という建物をつくるんですよ。

**海野** 建築家のフランク・ロイド・ラ

イトは、これを見て日本美術と建築にひかれたんなんです。

**伊藤** 日本はこのとき、「日本の作品を『美術館』に並べる」ことを目標に掲げます。それまでの万博では、工芸はもつてのほか、本来美術として認められるはずの絵画も、掛け軸や屏風だったために家具として扱われ、「美術館」に入れてもらえなかった。日本の美術が「美術館」に展示されるといことは、日本が一等国として認められるということだ、とこの目標をたてたわけなんです。

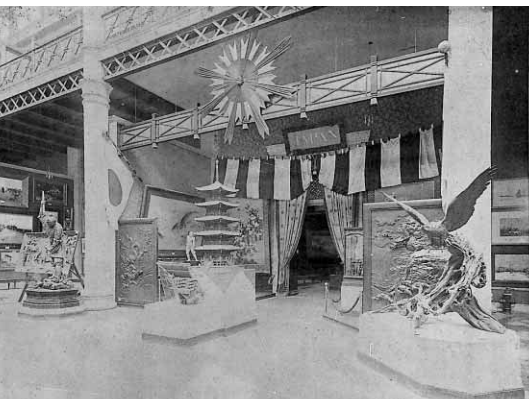
この時、富士山を描いた七宝の作品を出品しているんですね。額装されて、とうてい七宝焼には見えない、まるで絵のような作品なんです。これが晴れて「美術館」に飾られて、向うの解説でもペインティングの項目に入るんです。日本の記録には、絵だと思つて見ている人がいる」と、喜んでる様子がかがえます。なのに、何の模様もないような壺が、すごく評価されたりしてね。

**海野** いろんなすれの中でやってるんですよ。

**伊藤** 久保田米傳という人がシカゴの会場の絵をたくさん描いていて、いろんなことを報告しているんです。フ



1893年 シカゴ万国博覧会 鳳凰殿外観



1893年 シカゴ万国博覧会美術館内 日本の部



久保田米傳『閣龍』世界博覧会美術品画譜。シカゴ万博美術館で見たフランス出品の乾山写しの陶器 東京文化財研究所蔵

ランス出品のやきものの中に乾山写しを描いているんですよ。日本が出品した陶磁器は乾山というよりは仁清に近いもので、絵をいかに器にはりつけるかが主題になっているんです。対するフランスは乾山写しで、竹のようなかたちをした取っ手がついている。デザインの問題がかたちを決めているようなものなんです。

## モダンデザインの芽生え

**海野** いっぱう、すでにヨーロッパではモダン・デザインの運動がはじまっているんですよ。最初はウイリアム・モリスのアーツ・アンド・クラフツ運動ですね。生活とアートというものをもう一度結び付けたいという発想ですが、これも実は一八五一年のロンドン万博に対する批判が、大きなきっかけになっているんです。機械化によつて

## 3 万博の中のヨーロッパ美術

万国博覧会の中で、産業・科学技術とならんで最も注目されたのは美術です。もともと、進歩の祭典」という未来志向的な性格を強く持っていた万博ですが、一八五五年の第一回パリ万博は、当時のサロン(官展)を同時開催し、大規模な自国美術のデモンストレーションの場となりました。それ以外にも、各国パヴィリオンをはじめ、さまざまな場所でも有名・無名の美術家たちが腕を競いました。そのようななか、芸術と産業の境界はしだいに曖昧となり、一九〇〇年のパリ万博ではアル・ヌーヴォーの産業美術が花開きました。ここでは、万博の果たしてきた美の祭典としての役割に迫ります。

### 主な作品

ヴィーナスの誕生  
アレクサンドル・カバネル  
一八六三年 オルセー美術館蔵  
一八六七年パリ万国博覧会出品



© photo RMN/Herve Lewandowski/distributed by Sekai Bunka Photo

## 万国博覧会の美術 関連年表

- 1851(嘉永4)年 ロンドン万国博覧会。世界最初の万国博覧会。鉄骨とガラス張りの水晶宮
- 1855(安政2)年 パリ万国博覧会
- 1858(安政5)年 日米修好通商条約締結。その後、蘭、露、英、仏とも締結
- 1862(文久2)年 ロンドン万国博覧会。幕府が使節団を派遣
- 1867(慶応3)年 パリ万国博覧会。幕府および佐賀藩、薩摩藩が独自に参加  
大政奉還
- 1872(明治5)年 博覧会事務局設立、旧湯島聖堂・大成殿にて日本初の博覧会(東京国立博物館の前身)
- 1873(明治6)年 ウィーン万国博覧会。日本、国として公式に初参加
- 1874(明治7)年 ロンドン万国博覧会
- 1876(明治9)年 フィラデルフィア万国博覧会。アメリカ独立100周年
- 1877(明治10)年 第1回国内勧業博覧会
- 1878(明治11)年 パリ万国博覧会
- 1881(明治14)年 第2回国内勧業博覧会
- 1882(明治15)年 博物館、上野公園内に移転し、開館
- 1883(明治16)年 ルイ・ゴンス、『日本の芸術』(全2巻)をパリで出版。ジョルジュ・ブティ画廊にて、「日本美術回顧展」開催
- 1886(明治19)年 フェノロサと岡倉天心、アメリカ、ヨーロッパの美術行政視察旅行
- 1888(明治21)年 ウィリアム・モリスらの第1回アーツ・アンド・クラフツ展開催
- 1889(明治22)年 パリ万国博覧会。フランス革命100周年。エッフェル塔の建設  
エミール・ガレ、ガラス、家具、陶器を出品し、グランプリを獲得
- 1890(明治23)年 第3回国内勧業博覧会
- 1893(明治25)年 シカゴ万国博覧会
- 1894(明治27)年 日清戦争はじまる(翌年4月まで)
- 1895(明治28)年 サミュエル・ピング、パリに装飾美術の店「アール・ヌーヴォー」を開店
- 1900(明治33)年 パリ万国博覧会。法隆寺金堂を模した日本歴史美術館で日本美術協会選定による「日本古美術展」開催。アール・ヌーヴォー最盛期

2005年日本国際博覧会開催記念展  
「世紀の祭典 万国博覧会の美術」  
～パリ・ウィーン・シカゴ万博に見る東西の名品～  
7月6日(火)～8月29日(日)  
東京国立博物館 平成館

主催：東京国立博物館 NHK NHKプロモーション  
日本経済新聞社 大阪市立美術館  
名古屋博物館  
共催：財団法人2005年日本国際博覧会協会  
後援：経済産業省 文化庁  
協賛：王子製紙グループ 大林組 凸版印刷  
トヨタ自動車  
協力：電通 川島織物 日本航空  
観覧料：一般1300円(1100円/950円)  
大学生900円(800円/510円)  
高校生800円(700円/450円)  
小・中学生無料

\*( )内は、前売り/20名以上の団体料金  
\* 障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に、障害者手帳などをご提示ください。

巡回予定  
2004年10月5日(火)～11月28日(日) 大阪市立美術館  
2005年1月5日(水)～3月6日(日) 名古屋博物館

失われた工芸を取り戻したい。モリスの考え方は、中世のギルドの時代に戻るべきだというものです。絵画、工芸、建築などジャンルを区切らないで、アートを一つのトータルなものとしてとらえる考え方を打ち出したんですね。そもそも彼が結婚して家を建てようと思ったときに、どうもびったりした建築や家具がない。それで友達が集まって、自分たちで作ろう、と考えたのがきっかけです。たとえば壁紙もいいものがない。ヨーロッパの壁紙はたとえば花なら壁から飛び出してくるような遠近法を使った文様なんです。モリスは壁紙はフラットなパターンであるべきだと考えました。モリスは文様(図)と地が平面になっていて、余白自体が一つの積極的な意味をもつ、そういう日本の文様の平面性を取り入れるんですね。さらに伝統的な古い文様を



採用するのではなく、花文なら直接花を写生して、そこからもつ一度フレッシユな文様をつくりだすということをしている。

伊藤 日本の家紋のデザインなんかも影響しているのでは？ ジャパンニス・ポタリーという日本の陶磁器についての解説書がイギリスで発行されていたんですが、そこには葵の紋とか桐の紋が紹介されています。

海野 中世に戻れといったモリスは一見、古い方を向いているようですが彼の運動が工芸の再評価につながり、モダン・デザインの起源となり、さらにアール・ヌーヴォーへと流れていくわけです。結果としては二十世紀のデザインを生みだしているんですね。そのすべてのきっかけが、近代を象徴するロンドン博への批判だったというのもまた面白いところですね。

### ボダーを越えて

伊藤 そして、次にでてくるのが、一九〇〇年、パリ万博ですね。

海野 この万博で一躍脚光を浴びたのは、アール・ヌーヴォーの旗手、エミール・ガレです。ぼくはガレという人



四団扇花器  
エミール・ガレ 飛騨高山美術館蔵

は、ふたつの境界をまたいだ芸術家だと思っんですね。パリと故郷、アルザスの田舎町ナンシー、日本と西洋、十九世紀と二十世紀。彼は、いつもさまざまな境界をまたいで行き来するんですね。作ったものもまた、ガラスと陶器の境をまたいでいるんですね。ガラスというのは透明なものが多くわけです。ところが彼のガラスは半透明で色がかかっている。ちょうど薄明というか、ぼんやりと何重にもなったもの。これは陶器なのかガラスなのかすれすれのところにきていますよね。

伊藤 自分が表現したいというもののために、それまでの規範を超えることができた、ということですね。

海野 日本からきた絵描きの作品や日本のやきものモチーフも自由に消化してしまっんですね。

伊藤 それにしても、世界中を一気にいろんなものが行き来して、実に活気に満ちた時代ですね。

海野 万博ってこつた煮でしよ。いろんなものが分裂していた時代にさまざまなものが出会ったというのは大きな意味があると思いますよ。振り返ると、二十世紀後半は純粋性が評価されて、中間にあるものが評価されてこなかった時代なんです。日本は今いるんな国の人たちが入ってきて異文化を一つにまとめていく時代ですから、そういう折衷性をもつと評価してもいいんじゃないかな。

伊藤 展覧会では、そのこつた煮のなかの明治のパワーとエネルギーをぜひ感じてもらいたいですね。

海野 そう、明治の日本人はよくやっているなあと思いますよ。

伊藤 よくぞこつた、という感じですね。作品を通してそういった再評価ができるかどうか、ぜひ展覧会にはいらしてください。

海野 楽しみですね。それから、今

### 万国博覧会の美術 記念講演会

- 第1回 7月24日(土)13時30分～15時 平成館大講堂  
「万国博覧会の中の西洋美術 - パリ万博を中心として -」  
高橋 明也氏(美術史家)
- 第2回 8月14日(土)13時30分～15時 平成館大講堂  
「万国博覧会と日本工芸 東西が出会った」  
伊藤 嘉章(当館平常展示室長)

【申込方法】官製往復はがきの「往信用裏面」に、郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号・年齢・希望日、「返信用表面」に、郵便番号・住所・氏名を明記して下記までお申し込みください。

1枚の往復はがきで、1人のみ申し込み可能。応募多数の場合は、抽選聴講無料(ただし特別展観覧券が必要)

申込締切 第1回7月9日(金)必着/第2回7月30日(金)必着  
申込先 〒110-8712 台東区上野公園13-9

東京国立博物館教育講座室「万博展講演会係」

度の展覧会で万博からんだ工芸品についていろんな資料がでてきているでしょうから、ぜひ江戸後期からの日本の工芸史を書き直していただきたいなと思います。とても面白い分野だと思いますよ。

伊藤 それはたいへんなブレッシヤーです(笑)。今日はありがとございました。

# 薬師寺東京別院落慶記念

# 特別公開 国宝 吉祥天画像

表慶館に舞い降りた「幸福の女神」吉祥天。唐の美人を思わせるその美しい姿が、夏休み期間を限って特別に公開されます。



吉祥天はもとも古代インド神話の女神ラクシュミーのごとく、福德神として仏教に組み込まれました。『金光明経』や『金光明最勝王経』という経典に説かれ、それらに基づく吉祥悔過会や最勝会という法会が奈良時代を中心に盛んに行われました。この吉祥天画像もそうした法会の本尊画像、あるいはその一部であると考えられています。

画面を見ると、幾重もの美しい衣裳を身につけ、わずかに顔をうつむかせて向かって右斜め前方を見つめる像が描かれています。中国の盛唐時代頃の理想的女性像を思わせる、透き通るような白い肌、黒く太い肩、小さく締まった赤い唇、ふっくらとした頬が作り上げるふくよかな顔立ち、さらに、耳元の鬢の後れ毛や衣裳の胸元からわずかに覗く乳房のふ

くらみ、細くしなやかな手の指の動きなどが、気品ある艶かしさを醸し出しています。しかし同時に、後頭部の丸い頭光の痕跡や左手に宝珠を載せる点、肩から掛けられた天衣や蔽膝と呼ばれる前掛けのひれ等が軽やかにびく様からその名の通り「天女であることもうかがえます。これらの点から、本画像の見所の一つとして美人画のような繊細優美さと仏教絵画としての風格を兼ね備えた点が挙げられるのではないのでしょうか。

描画技法としては、麻布地に画像の形に沿って白土を下地として塗り、淡墨の下書き、朱・緑・紫・群青といった厚手の彩色、更に細筆を用いた精緻な描き起こしという手順を踏んでいます。表装形式は木枠に画面を貼り付けた額装形式をとり、その下地骨の構造は正倉院の屏風類に近いことが確認されています。

この絵は唐代様式を伝える奈良時代絵画の数少ない遺例として貴重なものであります。ぜひこの機会に存分に堪能ください。(沖松健次郎)



● 吉祥天画像  
奈良時代・8世紀 奈良・薬師寺蔵 小画面ながら空間の大きさを感ぜさせる点にも注目してください

## 関連事業のご案内

### 記念講演会

8月7日(土) 13時30分～15時(開場13時予定)  
平成館大講堂

### 「薬師寺の歴史と文化」

法相宗大本山薬師寺管主 安田 暎胤 師

定員 340名(事前申込制)

申込方法 官製往復はがきの「往信用裏面」に、郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号・年齢を「返信用表面」に、郵便番号・住所・氏名(ふりがな)を明記して下記までお申し込みください。

1枚の往復はがきで、1人のみ申し込み可能。  
応募多数の場合は、抽選のうえ受講券(1枚で1人受講可)を送ります。

申込締切 7月23日(金)必着

申込先 〒110 8712 台東区上野公園13-9  
東京国立博物館教育講座室「薬師寺講演会係」

### 薬師寺僧侶による吉祥天の話

(事前申込不要、ただし当日の入館料が必要)

7月29日(木) 8月1日(日) 5日(木)  
12日(木) 15日(日) 19日(木)

各日11時、12時、13時、14時、15時の5回(各回約20分間)  
表慶館エントランスに集合

7月29日、8月1日、5日、15日、19日

薬師寺執事(東京別院担当) 大谷 徹笑 師

8月12日

薬師寺執事 加藤 朝胤 師

8月19日

薬師寺録事 松久保 伽秀 師

## 薬師寺東京別院落慶記念

### 特別公開 国宝 吉祥天画像

7月27日(火)～8月22日(日) 東京国立博物館 表慶館

主催：東京国立博物館 薬師寺

\* 平常料金でご覧いただけます

一般420円(210円) 大学生130円(70円)( )内は20名以上の団体料金

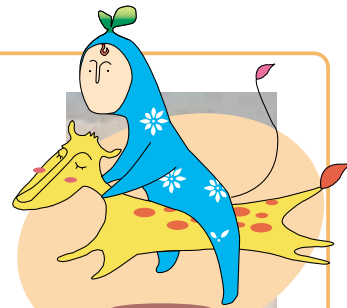
\* 障害者とその介護者1名は無料です。障害者手帳などをご提示ください

\* 高校生以下、満65歳以上の方は無料です。年齢のわかるもの(生徒手帳、健康保険証、運転免許証など)をご提示ください

夏休み  
子ども  
企画

# 親と子のギャラリー 文字・もじ・モジ

7月17日(土)~8月29日(日) 東洋館地下



博物館に並んでいる「書」や「書跡」っていうと、何だかむずかしそう。

でも要するにわたしたちが毎日使う文字を書いたものなのです。今年の夏休みは「親と子のギャラリー 文字・もじ・モジ」で、文字の歴史や美しさに、気軽に接してみませんか？

上手な字ってどんな字？  
れば上手な字が書けるの？  
江戸時代の習字の様子を通して、  
上手な字を書くための人びとの工夫にも目を  
向けようと思います。

## 第 部 すてきな文字を書きたい！

流れるように書かれた日本独特の  
ひらがな、中国の伝統をふまえたり  
つばな漢字、さまざまな文字をなが  
めましょう。着物や箱をかざるデザイ  
ンとして使われた文字もあります。

## 第 部 すてきな字を見たい！

中国で生まれたばかりの漢字は絵  
のような形。だんだん整えられて、  
現在のようになりまし。漢字  
はやがて日本に伝わり、「ひらがな」  
や「カタカナ」が生まれます。

## 第 部 文字についての基礎知識



## ワークショップに参加しよう



### 1「文字と遊ぼう」

会期中毎日 10時~17時

同じ文字でも、いろいろな違う形があります。パズルでさがしてみよう！  
短冊形の色紙やハガキに、好きな文字を書いたり、はったり、絵の中に字をかくしたり。文字を使った楽しい作品をつくってみよう！

### 2「とうはく書道道場」事前申込制

7月24日(土)・31日(土)

8月14日(土)・21日(土)

11時~12時

書道の専門家が、字の形のなりたちを説明したうえで、目の前で書いてみせます。それを見て、本格的な書道に挑戦してみよう！

対象：小学5年生~中学生

定員：各回10人(先着順)

### 3「博物館探検：探してみよう！

文字・もじ・モジ」事前申込制

7月27日(火)

8月10日(火)・24日(火)・28日(土)

11時~12時

博物館に展示中の作品や建物の表示にかくれているおもしろい形の文字を探します

対象：小学生以上。親子参加可

定員：各回20人(先着順)

### 4「文字をかざろう」事前申込制

8月3日(火)・7日(土)・17日(火)

13時30分~15時

書いた字はどうやってかざるかな？  
「巻き物」「かけじく」「扇子」「びょうぶ」  
...? いろんなかたちでかざってみよう

対象：小学5年生~中学生

定員：各回10人(先着順)

2~4は事前申込制です

### 【ワークショップの申込方法】

氏名(ふりがな) 住所 電話番号 希望プログラム 希望日を明記の上、官製往復はがき、FAX、電子メールのいずれかでお申し込みください

### 【締切】

各実施日の10日前まで

### 【申込・問い合わせ先】

〒110-8712 台東区上野公園13 9

東京国立博物館教育普及室

TEL: 03(3822)1111(代表)

FAX: 03(3822)3010

e-mail: edu@tnm.jp

\*ワークショップの参加は無料です  
(大学生以上は当日の入館料が必要になります)



## 親子講座

博物館でほんものの作品にふれ、専門家の話をきいてみませんか？

自由研究にもぴったりのふたつの講座、お子さんはどちらを選ぶでしょう。

### 第1回 「ミイラって何？ 古代エジプトの生と死」

解説 後藤 健(当館上席研究員)

7月22日(木) 13時30分~14時30分

資料館2階セミナー室

### 第2回 「こどもはにわランド！ 人・家・どうぶつ...」

解説 古谷 毅(当館保存修復室主任研究員)

8月4日(水) 13時30分~14時30分

資料館2階セミナー室

対象：小学校5・6年生とその保護者 参加費：無料

定員：各回 親子20組 先着順(1家族3名まで)

子どもだけの参加はできませんが、大人だけの参加はできません

### 【親子講座の申込方法】

A 官製往復はがき  
往信面に 氏名(ふりがな) 住所 電話番号 希望する講座 保護者参加の有無と人数を記入し、返信面に郵便番号、住所、氏名を記入して下記申込先までお送りください

B ファクシミリまたは電子メール

氏名(ふりがな) 住所 電話番号 希望する講座 保護者参加の有無と人数を記入して下記申込先まで送信してください

### 【申込先】

〒110-8712 台東区上野公園13 9

東京国立博物館教育講座室「親子講座係」

FAX: 03(3822)3010 e-mail: edu@tnm.jp

## もののふたちの魂と営み

### 5・6 武士の装い -- 平安~江戸

9月1日(水)~12月12日(日)

- 白糸威鎧
- 鎌倉時代・14世紀
- 鳥根・日御碕神社
- 萩螺鈿鞍
- 平安時代・12世紀など



萩螺鈿鞍

●白糸威鎧

## 侘び・寂びの原点にたつ

### 4 茶の美術

9月1日(水)~12月12日(日)

- 青磁茶碗 銘 馬蝗絆
- 中国・龍泉窯
- 南宋時代・12世紀
- 三井高大氏寄贈
- 大井戸茶碗 有楽井戸
- 朝鮮時代・15~16世紀
- 松永安左工門氏寄贈など



青磁茶碗 銘 馬蝗絆

## 禅林の美と思想に触れる

### 3-3 禅と水墨画

-- 鎌倉~室町

9月1日(水)~10月3日(日)

- 竹斎読書圖 伝周文筆 文安4年(1447)
- 竺雲等連序・江西龍派等五僧題詩
- 室町時代・15世紀
- 偈頌 夢窓疎石筆 南北朝時代・14世紀など

### 王朝貴族の夢のあと

### 3-2 宮廷の美術

-- 平安~室町

9月1日(水)~10月3日(日)

- 平治物語絵巻(六波羅行幸巻)
- 鎌倉時代・13世紀 松平直亮氏寄贈
- 古今和歌集巻第十八断簡(高野切本)
- 伝紀貫之筆 平安時代・11世紀 個人蔵など



●平治物語絵巻(六波羅行幸巻)

### 日本ではぐまれたほとけの美

### 3-1 仏教の美術

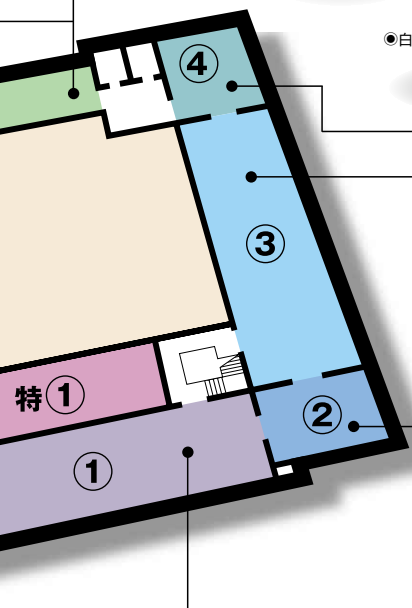
-- 平安~室町

9月1日(水)~10月3日(日)

- 愛染明王坐像
- 鎌倉時代・13~14世紀
- 十六羅漢像(第九尊者~第十二尊者)
- 平安時代・11世紀
- 円珍贈法印大和尚位並智証大師諡号勅書
- 小野道風筆 平安時代・延長5年(927)など



●円珍贈法印大和尚位並智証大師諡号勅書



## 目玉の1点をじっくり鑑賞

### 2 国宝室

9月1日(水)~

10月11日(月・祝)

- 普賢菩薩像
- 平安時代・12世紀



●普賢菩薩像

## 古代の造形から始める美術史の第1歩

### 1-1 日本美術のあけぼの

-- 縄文・弥生・古墳

9月1日(水)~2月27日(日)

- 土偶 宮城・恵比須田
- 縄文時代晩期・紀元前10世紀~紀元前5世紀
- 埴輪 胡座の男子
- 栃木・龜山
- 古墳時代後期・6世紀
- 長頸壺
- 三重・蟹穴古墳出土
- 飛鳥時代・7世紀など



土偶

## START

## 大陸渡来の仏教とそのかたち

### 1-2 仏教の興隆

-- 飛鳥・奈良

9月1日(水)~10月3日(日)

- 菩薩像
- 飛鳥時代・7世紀
- 賢愚経断簡(大聖武)
- 伝聖武天皇筆
- 奈良時代・8世紀
- 興福寺金堂鎮壇具
- 奈良時代・8世紀など



菩薩像

一階は「もともとわかりやすく」にこたえる時代別展示、  
一階は「もっと詳しく、もっとたくさん」にこたえるジャンル別展示。  
昨年のリニューアルを踏まえて、本館はもう一度生まれかわります。

昨年(2023年)の七月に、本館二階の展示を時代別の「日本美術の流れ」という日本美術が一望できる新しい展示にリニューアルしました。アンケート結果によりますと、ほぼ七割の方から「わかりやすくなった」「何を見たらいいのかわかる」といった賛同のご意見をいただきました。ただ、分野別の展示を充実させてほしい、もっと多くの書画が見たいといったご意見も多数ありました。今年九月、こうしたご意見を生かして、日本美術の流れ」を含め、本館の全面的なリニューアルをいたします。

新しい展示では、本館二階を単なる時代展示からもう一歩推し進め、日本美術の特質に照準をあわせた「仏教の興隆」「仏教の美術」「宮廷の美術」「禅と水墨画」「茶の美術」「武士の装い」「浮世絵と衣装」など時代ごとのテーマを設定し、よりわかりやすく作品によって各時代をこ覧いただけます。「もっと見たい」「もっと詳しく知りたい」という方のためには、一階に彫刻、漆工・陶磁・刀剣といったひとつの分野にこだわった展示室を設けます。さらに、絵画・書跡に関しては、特別1・2室において、テーマを定めたさまざまな角度からの切り口による展示を行い、質・量ともに充実した常設展を目指します。

また、本館二階の国宝室では、従来どおり、東京国立博物館所蔵および寄託の国宝の魅力を、じっくりと鑑賞していただけるように展示いたします。

今回は新しい本館のフロアプランと、リニューアルの際の主な展示品をご案内します。

どうぞ、新しい本館にご期待ください。そしてお楽しみください。

(鳥谷弘幸)

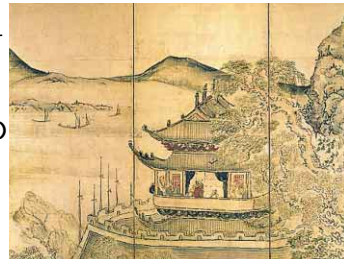
\*リニューアルに伴う改装工事と展示作業のため、7月1日~8月31日、本館は全室閉館させていただきます。皆様にはたいへんご迷惑をお掛けし、申し訳ありません。この間、日本美術の展示は平成館一階寄贈品展示室にて行います(10~11ページ参照)。



百花繚乱、美の爛熟期

絢爛たる装飾の美

迫力の大画面に酔う



●楼閣山水図屏風(部分)

8-2 書画の展開

-- 安土桃山・江戸

9月1日(水)~10月11日(月・祝)  
船窓小戯帖 田能村竹田筆  
江戸時代・天保元年(1830) 個人蔵  
天狗説屏風 荻生徂徠筆  
江戸時代・18世紀  
京都・(有)愛染倉観光蔵など

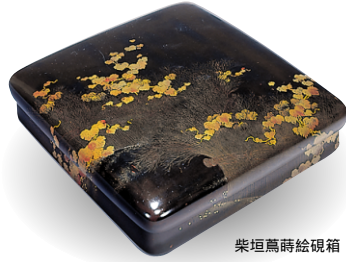


船窓小戯帖

8-1 暮らしの調度

-- 安土桃山・江戸

9月1日(水)~12月5日(日)  
柴垣萬時絵硯箱  
古満休意作 江戸時代・17世紀  
単衣 紫組地流水芦雁模様 江戸時代・18世紀  
高木きょう氏寄贈(9/1~10/31展示)  
色絵紅葉賀図茶碗 仁清作 江戸時代・17世紀  
山本富子氏・賢二氏寄贈など



柴垣萬時絵硯箱

7 屏風と襖絵

-- 安土桃山・江戸

9月1日(水)~10月11日(月・祝)  
●楼閣山水図屏風  
池大雅筆 江戸時代・18世紀  
団伊能氏寄贈など

2階

もっとわかりやすく!  
時代別展示  
「日本美術の流れ」

芸能と舞台の美

9 能と歌舞伎

「金春座伝来能装束」  
9月1日(水)~10月31日(日)  
縫箔 白地雪持柳扇面肩裾模様  
桃山時代・16世紀 金春座伝来  
縫箔 茶地百合御所車模様  
桃山時代・16世紀 金春座伝来など



縫箔  
茶地百合御所車模様

江戸の暮らしと風俗

10 浮世絵と衣装 -- 江戸

浮世絵 9月1日(水)~9月26日(日)  
遊女と禿図 懐月堂安度筆 江戸時代・18世紀  
橋下の涼み船 鳥居清長筆 江戸時代・18世紀など

衣装 9月1日(水)~10月31日(日)  
小袖 藍綸子地熨斗菊花模様 江戸時代・17世紀  
牧馬蒔絵印籠 金時銘「常嘉齋」 江戸時代・19世紀など



橋下の涼み船

牧馬蒔絵印籠

書跡・絵画をじっくり見せる特集陳列

特1・特2 企画展示

特別1室 特集陳列「古筆を楽しむ」  
9月1日(水)~10月24日(日)  
●秋萩帖 伝小野道風筆 平安時代・10世紀  
手鑑「月台」 奈良~鎌倉時代・8~14世紀など



●秋萩帖

GOAL

特別2室 特集陳列「肖像画」  
9月1日(水)~10月11日(月・祝)  
後白河法皇像  
1幅 鎌倉時代・13世紀 京都・妙法院蔵など

16 歴史資料

特集陳列「田中幸徳氏寄贈 田中房種 博物図譜資料」  
9月1日(水)~10月11日(月・祝)  
群英類聚図譜 標目 江戸時代・19世紀  
ホルトノキ 明治25年など

18 近代美術 - 絵画・彫刻

9月1日(水)~10月11日(月・祝)  
出湯 小林古径筆 大正10年(1921)  
グレーの秋 浅井忠筆 明治34年(1901)など

19 近代工芸

9月1日(水)~11月28日(日)  
月に雁図額 加納夏雄作 明治31年(1898)  
七宝花蝶文瓶 並河靖之作 明治25年(1892)など

20 寄贈者顕彰室

特3 企画展示 閉室

特4 企画展示

9月1日(水)~10月11日(月・祝)  
特集陳列「銅鐻の絵画」  
●銅鐻 伝香川県出土 弥生時代中期・紀元前2世紀~紀元前1世紀  
銅鐻 兵庫県豊岡市気比出土 弥生時代中期・紀元前2世紀~紀元前1世紀など

\*リニューアルに伴い、9月1日より展示室番号及び名称が変わります。

15 民族資料 - アイヌ・琉球

9月1日(水)~11月28日(日)  
アイヌ鍬先 北海道アイヌ 19世紀  
マキリ 北海道アイヌ 19世紀

14 工芸

特集陳列「中世の陶磁」9月1日(水)~12月12日(日)  
自然釉刻文大壺 信楽 室町時代・15世紀  
黄釉牡丹唐草文広口壺 瀬戸 南北朝時代・14世紀など

1階

17室 休憩室

もっと深く、もっとたくさん!  
ジャンル別展示

13-3 刀剣

9月1日(水)~12月5日(日)  
●刀 相州正宗(名物 観世正宗)  
鎌倉時代・14世紀  
吉野龍田図大小揃金具 後藤一乗  
江戸時代・元治元年~慶応元年(1864~65) 個人蔵など

13-2 漆工

特集陳列「秋草の蒔絵」9月1日(水)~12月5日(日)  
菊枝蒔絵手箱 南北朝時代・14世紀  
御所車蒔絵硯箱 江戸時代・17世紀など

13-1 陶磁

9月1日(水)~12月5日(日)  
織部扇形蓋物 美濃 江戸時代・17世紀  
染付龍涛文提重「古器観製」印  
青木木米作 江戸時代・19世紀 笠置 達氏寄贈など

12 彫刻と金工

9月1日(水)~11月28日(日)  
銅三昧耶五結鈴 東京・護国寺蔵 平安時代・12世紀  
大日如来坐像 栃木・光得寺蔵 鎌倉時代・12世紀など

11 彫刻

9月1日(水)~11月28日(日)  
●広目天立像 平安時代・12世紀 京都・淨瑠璃寺蔵  
千手観音菩薩立像(40号)  
鎌倉時代・建長3~8年(1251~56) 京都・妙法院蔵など

# 特集陳列 日本美術の精華

7月1日(木)～8月31日(火) 平成館寄贈品展示室

9月1日の本館リニューアル グランド・オープンに伴い、本館が全室閉館となる7～8月の間、平成館1階の寄贈品展示室で日本美術の展示を行います。奈良時代の仏教美術や室町時代の水墨画、江戸時代の浮世絵など多彩な日本美術の魅力をお楽しみください。43件の展示作品のうち主なものを紹介します。

## 東海道の名所に遊ぶ 広重の東海道五拾三次画帖

東海道は江戸と京都を結ぶ街道で、ほぼ五〇〇リ、その間に五十三の宿駅があり当時十四日ほどの旅程でした。「東海道五十二次」を描いた浮世絵は、歌川広重(一七九七～一八五八)をはじめとして多くの絵師によって制作されました。その代表作が、版元の名を冠して保永堂版「東海道五拾三次」と呼ばれている広重筆の横大判五十五枚のシリーズです。

広重が幕府の仕事で東海道を歩き、実際の景色をもとに制作されたと言われてきましたが、最近「画譜」や「名所図絵」など多くの種本をもとに制作が行われていたことが指摘されています。それらを参考に、ユーモアと情感にあふれる画面を作り出す創造力にこそ広重の魅力があると言えるでしょう。

このシリーズは、江戸から順に制作されたようで、全図が出版された後には一図を半分で折り、見開きにした画帖仕立てで販売された揃いもあつたようです。ページをめくるにしたがって東海道を西に進んで行くような鑑賞法がこのシリーズに適しています。

今展览展示するのは、二図を見開きとして仕立てられた画帖です。画面には擦れによる傷みが見られますが、早い時期の版で、丁寧な摺りによる色豊かな作品で構成されています。保永堂版と呼ばれています。保永堂と仙鶴堂の共同出版で始まったので、最初の方の版元印は連名になっています。また、屋根の描き方や重層的な構成方法など、最初と最後の作品の間には表現上の違いも見られます。それらを比較して見るのも楽しいでしょう。



東海道五拾三次之内・日本橋 歌川広重筆 江戸時代・19世紀  
朝焼けの日本橋を大名行列とともに出発(7月1日～8月2日展示)



東海道五拾三次之内・京師 歌川広重筆 江戸時代・19世紀  
比叡山を背景とした三条大橋。実際にはこのような位置関係には見えない(8月3日～8月31日展示)

## 勇壮華麗な美 銀銅蛭巻太刀

刀剣の外装である拵は、時代や流行による変化がみられます。蛭巻太刀は中世の武士たちに愛好された拵の一つです。柄や鞘を銅などの薄板で螺旋状に巻くことを蛭巻といい、堅牢さや手溜りの良さ、装飾性を兼ねて太刀の拵に用いられました。蛭巻は太刀のほか薙刀の柄などにも用いられたことが現存する作品や「平家物語」「太平記」などの記述からもつかがえます。

この太刀は、柄や鞘を幅一・四センチほどの銅の細長い板で蛭巻とし、銅の表面には鍍銀を施して、その隙間は黒漆で埋めています。柄には唐花亀甲繋ぎの金具を据え、兜金や鐔の縁・鞘の足金物の上部・賣金・鐔には唐花亀甲文が彫られています。これらの金具はいずれも銅地に鍍金です。蛭巻の鍍銀が現在では黒く変化していますが、当初は蛭巻の銀、隙間の黒、金具の金のコントラストが鮮やかな華麗な拵でした。柄を強く反らせ、鞘の反りは浅く、鑑に向かって少し細くなつた形は勇壮な趣があり、平安から鎌倉時代にかけての刀剣の姿の特色をよく伝えています。

高野山の鎮守で、天野社と称された丹生都比売神社にほかの兵庫鎮太刀とともに伝来しました。

今回の陳列では、平安時代の備前の刀工、包平の傑作として評価の高

**狩野派の祖正信の代表作  
周茂叔愛蓮図**

背の高い樹木の左に池が広がり、高士と侍童を乗せた舟が浮かんでいます。池には蓮とおぼしき葉が数多く描かれています。

周茂叔諱は敦頤一〇一七〜七三三は中国・北宋時代の儒学者で、宋学

の開祖です。その著太極図説は日本でも尊重されました。周茂叔は蓮花を愛して「愛蓮説」を著し、菊を隠逸の花、牡丹を富貴の花、蓮を君子の花としました。「愛蓮説」を収録した『古文真宝後集』は室町時代の禅林において模範漢文集として愛読されたので、周茂叔愛蓮図の制作と鑑賞は禅僧たちの間で始まったと考えられます。

賛が書かれることを予期してが図の上方にかなりの余白があります。おそらく高名な禅僧に詩を書き入れてもらうことを前提に作られたのだでしょう。この作品は、絵としては下半分が中心で、左下を池水、右上を樹叢とする対角線構図の変形版といえます。

作者の狩野正信(一四三四〜一五

三〇)は狩野派の祖とされる画家です。本図の単純明快な空間構成は、この時代に尊重された南宋絵画の边角構図(対角線構図の一種)を学んだもので、京都における正信の中国画学習の成果が活かされています。保存状態も良く、柳の葉に施された爽やかな淡彩も見のがせない魅力となっています。(救仁郷秀明)



●周茂叔愛蓮図 狩野正信筆 室町時代・15世紀  
柳の葉に施された緑のさわやかな淡彩に眼が惹かれます(7月1日〜8月2日展示)



●金銀鍍宝相華唐草透華籠 鎌倉時代・13世紀  
滋賀・神照寺蔵 金銀の色彩の使い分けにも目を凝らして

**散華供養の花のつつわ  
金銀鍍宝相華唐草透華籠**



花を盛った葉っぱの華籠  
インド・デリーにて

華籠は文字どおり花を盛る器のことです。仏教では法会の際、僧侶が生花を散らして仏壇上を散華供養します。これは元来古代インドで貴人が来訪した時に入口や室内に生花を散らしてあたりを清める風習に由来しています。インドでは現在でも寺院の門前で葉っぱでつくった皿に生花を盛って売っている店をよく見かけます。人々はこれを買って生花を仏像や神々の

像に投げかけてから礼拝するのです。神照寺のこの華籠は銅板を皿形に打ち出し、底部の全面に宝相華唐草文を透彫りて表しています。全体に鍍金(金メッキ)を施したのち、さらに花形や葉形の部分にのみ鍍銀(銀メッキ)を施して色彩に変化をつけています。縁には覆輪をめぐらし、底面の三箇所には下げ緒を通す鑲座を設けています。いまこの鑲座を目印に目を凝らして宝相華文を「らんくんだい」。斜め上から見た形、あるいは側面から見た形の花形や葉形をつけた茎が三

本、底部の中心から巴形に伸びている様子がわかりました。ただ、それだけではその器面いっぱいにはバランスよく配された文様の構成は絶妙です。ここに作品を鑑賞する楽しみがあります。神照寺にはこの種の華籠が十六枚伝えられています。仔細に見ると宝相華文の表現や製作技法から大きく二つのグループに分かれますが、どちらであれ、わが国に現存する華籠の中で最も美麗で、まさに日本美術の精華と呼ぶにふさわしい作品です。(加島 勝)



銀銅蛭巻太刀(部分) 平安時代・12世紀 和歌山・丹生都比売神社蔵  
蛭巻の銀が輝いていた当初の姿を想像してみてください

い国宝、名物大包平の太刀も同時に展示いたします。(池田 宏)

東洋館

### 精緻な文様表現に注目

## 楼閣人物螺鈿十角硯箱

6月29日(火)～9月26日(日)

東洋館第5室

貝片を用いて文様を表す螺鈿の技法は、元時代(一一七一～一三六八)に大きく発展を遂げました。人物を中心とする物語や故事などの題材が好まれ、この硯箱の蓋表にも楼閣および酒を酌み交わす人々が表されています。元時代の螺鈿は精緻な技巧に特色があります。建物の細部や衣服や器物の文様、馬の毛などにいたるまで、あたたかみ絵画をみるような細密な表現は圧巻です。

この作品は、江戸時代後期の大名茶人として知られる松平不昧の蔵品目録である『雲州蔵帳』中の「硯箱」の項に「青貝十角」と記載されている硯箱にあたると考えられます。伝来が判明する点でもきわめて貴重です。

(今井敦)



楼閣人物螺鈿十角硯箱 元時代・14世紀  
酒を酌み交わす人物や行き交う人々をいきいきと描く

東洋館

### 手描きや型による細密な文様

## インドネシアの更紗

8月8日(日)まで 東洋館第3室

日本に初めて更紗が輸入されたのは桃山時代のこと。手描きや型を使つて文様を染めた南・東南アジア産の木綿地のことで、現代も盛んに製作されています。インドネシア系の更紗は英語ではパティックと呼ばれ、肌細描きや銅製の型で細密な文様を表現します。特にジャワ島では、藍とソガと呼



藍地花文菱繋文様更紗(部分)  
インドネシア 18世紀  
南インド産のインドネシア輸出向けデザイン。儀式などで珍重された

東洋館

### 東アジア古代史の鍵

## 広開土王碑

8月3日(火)～10月3日(日)

東洋館第8室

広開土王碑は好太王碑とも呼ばれ、四世紀末から五世紀初めにかけて倭(古代の日本)と高句麗が戦つたことが記されていることから、日本史の教科書でも取り上げられて

います。しかし倭とは何者か、どちらがどちらを攻めたかなどについて、さまざまな説があり、今でも国際的な論争が続けられています。今回は広開土王碑の拓本として一九七〇年代までの教科書に載っていた酒匂本(実は筆で墨を塗ったもの)で拓本ではありませんでした)と館蔵の拓本など碑文に関する資料と、碑の周辺から出土した考古資料をあわせて展示します。東アジア古代史に思いをはせる機会となれば幸いです。

(谷 豊信)

東洋館

### 南島の貝で飾られた馬具

## 金銅装雲珠

9月12日(日)まで 東洋館第10室

雲珠は馬を飾る道具のひとつです。この雲珠は脚が八本ありました。馬のお尻で四本のベルトが交差するところに載せて鉄で留め、責金貫で締めて

固定していました。輪になっている部分と脚は銅に金メッキをしています。鋳と責金貫は銅でできていますが、銀板をかぶせています。中央の白い部分にはめ込まれているのは巻貝です。動物考古学の金子浩昌先生によると、奄美諸島より南に棲息するクロフモドキという貝を使っているそうです。磨かれた貝の白地に赤い斑点、周囲の

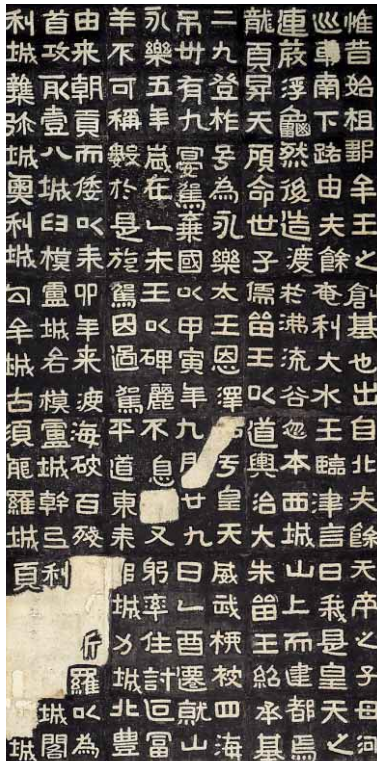


金銅装雲珠  
(丹城邑出土品のうち)  
韓国・慶尚南道山清郡出土  
三国時代(加耶)・5～6世紀



クロフモドキ  
貝殻の上部を削り、  
貝殻の中心に用い  
ている

金(とこ)ころの銀がそれぞれに輝き、たいそう贅沢に作られています。この雲珠で馬を飾つた人物は、遠く南海から貝を手に入れるほどの有力者だったに違いありません。(白井克也)



広開土王碑 酒匂本(部分)  
明治16年(1883)に酒匂影信氏が中国から持ち帰り、その後の研究の基礎となった資料。文章の一部が意図的に改変されていたという説もある

# 百済からの贈りもの 如来および両脇侍立像

五五二年(通説は五三八年)、百済から初めて仏教が伝えられた時、金銅製の釈迦仏一軀が欽明天皇に贈られたと『日本書紀』は記しています。その像の所在は知られませんが、飛鳥時代に朝鮮半島から伝えられたとみられる像が今もいくつか残っています。法隆寺献納宝物の中にも三件あり、その中でもっとも優れた出来栄を示すのが、如来および両脇侍立像(列品番号N-143)です。三尊がひとつの光背におさまり、独特の印相を結ぶ形式は、中国では六世紀(南北朝時代)、朝鮮半島では六〜七世紀(三国時代)に流行した形式

如来および両脇侍立像  
三国時代・6〜7世紀  
百済と日本の密接な交渉を偲ばせる仏像



で、この像もその一例です。中国の竜門石窟など北朝の像とは異なる、やわらかみのある作風は、南朝と交流した百済で造られたことを示すとみられます。さて、この像の形は鎌倉

時代に大流行したいわゆる善光寺式三尊像ととてもよく似ています。絶対の秘仏で拝することのできない長野・善光寺本尊の姿は、この像と近いものと考えられます。(浅倉龍介)

## 日本の考古

### 威風堂々の立ち姿

#### 挂甲の武人

9月5日まで 平成館考古展示室

現在、考古展示室にはさまざまなかたちの埴輪をみることができます。人物、馬、猪、鶏、水鳥、猿、盾、鞍、大刀、帽子、鬘、葦、短甲、家、円筒など

です。人物埴輪は男性像と女性像があり、特に男性像にはさまざまな姿態のものがあります。写真にある挂甲の武人は、衝角付冑を被り挂甲を身につけ、左手で大刀の鞘をもち右手で柄を執る姿をしています。また、抜刀スタイルの武人とも呼ばれます。首には丸玉の首飾りをつけており、

手には籠手の表現がみられます。小札を綴じあわせた挂甲は連続した方形の線刻として表現されており、その中を市松文様状に赤彩しています。この他にも腰掛ける女性像や鍬を担ぐ男子、琴を弾く男子、盾を持つ人などさまざまな人物像があります。ぜひそれぞれの持ち物や服装など見比べながらご覧ください。(日高慎)



挂甲の武人  
栃木県真岡市  
鶏塚古墳出土  
古墳時代・6世紀  
上半身と下半身を別々につくり、差し込み式とした人物埴輪

# 散歩かんぱく

9



巴石、六角石、ベンチ石。いづれも来歴は不明



## 上野山の歴史の証人

### 博物館の奇妙な石たち

表慶館の南北のはしに、ちょっと変わった形をした石の造形物が置かれているのをご存知でしょうか。といっても現代アートを気取ったみようちぎりんなものではありません。寛永寺に伝わったものですが、いずれ由緒あるものなのでしょう。

の長方形の石は上野公園の搦鉢山(なつかばた)なんとこれは古墳です(の山頂にもたくさんあります)から、上野山内で何かの礎石として使用されたものなのでしょう。どなたかのご教示があればうれしいのですが。

南側、つまり黒門側には六角形の台座風に彫刻された石が置かれ、まん中に「ツバ」の彫りこみがあります。北側すなわち平成館側には、六角形でまん中を真円形に切りぬいた、ちよつと井戸枠のような石があります。これらは何に使われたものがまったくわかりませんが、わからないといえば、巴石?の前にはベンチ状に加工された長方形の石がありますが、何か石組みの一部であること以外、皆目見当もつきません。この

眼堂(めだん)にあるのです。ここは寛永寺で唯一焼け残った鐘楼や灯笼がありますが、その石組みに使われているのがこの奇妙な石たちなのです。ところで、博物館の庭園内九条館の前には漬物石に手頃な丸石の山があります。公園内にもあちこちでみかけますが、これも石組みに使われたものなのでしょ。手順だからといって努々お持ち出しにならないでください。これも大事な文化財なのです(上野野城)

コンサート・演劇公演のお知らせ

ヘンデルとモーツァルトのタベ

日時 7月9日(金) 19時~20時30分  
 会場 東京国立博物館 表慶館  
 出演 中野振一郎(チェンバロ)、河合隼雄(フルート)  
 料金 3500円(特別展観覧券付)

チケットのお求め方法

当館正門観覧券売り場でチケット販売

受付 開館日の9時30分~16時30分  
 土、日は17時30分まで、7月9日は開演まで

電話予約販売

申込先 東京国立博物館イベント担当  
 TEL 03-3821-9270

受付 9時30分~17時(月曜~金曜)

\*チケットは、当館正門観覧券売り場にて現金引換にてお渡しします。

引換時間 9時30分~16時30分(開館日のみ)

ただし、土、日は17時30分まで、7月9日は開演まで

車椅子をご利用の方は、お申し込みの際にお申し出ください。

ファミリーコンサート

日時 7月19日(月・祝) 11時、14時の2回  
 会場 東京国立博物館 平成館ラウンジ  
 出演 東京クラリネット・クワイアー 指揮 稲垣恒夫  
 \*無料(ただし当日の入館料は必要です)

演劇公演「四谷怪談」

日時 7月1日(木)~7日(水)  
 開演 月曜日~木曜日 19時30分 金曜日 20時  
 土曜日・日曜日 18時  
 会場 東京国立博物館 表慶館  
 企画 Ort-d.d(オルト・ディー・ディー)  
 料金 一般3000円(当日3500円)、学生1500円(当日2000円)  
 平常展観覧券付、全席自由

\*チケットは東京国立博物館窓口(直接販売のみ)およびチケットぴあで発売中。

\*チケットの予約およびお問い合わせは、  
 Ort-d.d(オルト・ディー・ディー) E-mail:ort@78.com  
 TEL 090-5204-8941まで

演劇公演「四谷怪談」関連企画 講演会

日時 7月4日(日) 14時~  
 会場 東京国立博物館平成館大講堂  
 講師 横山泰子氏(法政大学助教授)  
 参加費 500円(入館料を含む)

\*演劇「四谷怪談」チケットをお求めのお客さまは無料。(ただし事前予約は必要)

\*申し込み・お問い合わせ先 東京国立博物館イベント担当  
 TEL 03-3821-9270まで

東京国立博物館賛助会員募集のご案内

東京国立博物館では賛助会員制度を設け、当館を幅広くご支援いただいております。賛助会員よりいただいた会費は文化財の購入・修理調査研究、平常展・施設整備等の充実に充てております。どうか賛助会の趣旨にご理解・賛同いただき、ご入会くださいますようお願い申し上げます。

年会費	年会費
特別会員 100万円以上	特別会員 100万円以上
維持会員 法人 20万円	維持会員 法人 20万円
個人 5万円	個人 5万円
特典	特典
特別展の特別内覧会にご招待	特別展の特別内覧会にご招待
国立博物館ニュースの送付	国立博物館ニュースの送付
*賛助会員のお申し込みは随時受け付けています	*賛助会員のお申し込みは随時受け付けています
*ご希望の方には資料および東京国立博物館賛助会員「MEMBERS」入会申込書をお送りします。	*ご希望の方には資料および東京国立博物館賛助会員「MEMBERS」入会申込書をお送りします。
*お問い合わせは	*お問い合わせは
東京国立博物館営業開発部 賛助会担当	東京国立博物館営業開発部 賛助会担当
03-3822-1111(代)	03-3822-1111(代)

東京国立博物館賛助会員 平成16年5月6日現在

特別会員	賛内 匡人様
日本電設工業株式会社様	岩沢 重美様
東京電力株式会社様	高田 朝子様
株式会社コア様	齋藤 京子様
明治安田生命保険相互会社様	齋藤 邦裕様
株式会社 精養軒様	株式会社 安井建築設計事務所様
毎日新聞社様	株式会社 ナガホリ様
大日本印刷株式会社様	井上 静男様
株式会社 大林組 東京本社様	和田 喜美子様
朝日新聞社様	佐々木 芳絵様
株式会社 ホテルオークラエンタープライズ様	藤原 紀男様
株式会社 ミロク情報サービス様	小田 昌夫様
TBS様	吉岡 昌子様
NHK様	松本建設株式会社様
東京新聞・中日新聞社様	関谷 徳衛様
株式会社 電通様	高橋 守様
読売新聞東京本社様	小澤 桂一様
維持会員	株式会社 光彩工藝
三菱電機ビルテクノサービス株式会社様	上久保 のり子様
早乙女 節子様	寺本 明男様
株式会社 三冷社様	柳田 良豊様
東日本電信電話株式会社様	株式会社 スタイルカフェ・ドット・ネット様
宇津野 和俊様	長谷川 英樹様
伊藤 信彦様	池田 孝一様
小金井造園株式会社様	木村 剛様
財団法人ソニー教育財団様	観世 あすか様
株式会社 NTTドコモ様	コクヨ株式会社様
斎藤 京子様	星 由尚様
井上 萬里子様	関口 大志様
田添 博様	株式会社 鴻池組 東京本店様
京葉匠 鶴屋吉信様	太田 喜久様
株式会社 東京美術様	株式会社 アクタス様
服部 禮次郎様	ほか5名3社、順不同

昭和三十九年	先縄文時代(旧石器時代) ~ 紀元前一万年
昭和四十年	縄文時代 紀元前一万年~紀元前四五〇年
昭和四十一年	弥生時代 紀元前四五〇年~紀元後 五〇〇年
昭和四十二年	古墳時代 二五〇年~六〇〇年
昭和四十三年	飛鳥時代 五三八年~七二〇年
昭和四十四年	奈良時代 七二〇年~七九四年
昭和四十五年	平安時代 七九四年~一一八五年
昭和四十六年	鎌倉時代 一一八五年~一三三三年
昭和四十七年	南北朝時代 一三三三年~一三九二年
昭和四十八年	室町時代 一三九二年~一五七三年
昭和四十九年	安土桃山時代 一五七三年~一六〇三年
昭和五十年	江戸時代 一六〇三年~一八六八年
昭和五十一年	明治時代 一八六八年~一九二二年
昭和五十二年	大正時代 一九二二年~一九二六年
昭和五十三年	昭和時代 一九二六年~一九八九年

時代区分の変更についてのお知らせ

当館では、展示室の掲示やカタログなどで、展示作品の制作などに関わる時代・世紀を明示しています。現在、東京国立博物館で採用している時代区分には、政治史によるものと文化史・美術史によるものが混在してあり、「教科書で習った年代と違う」「どうもわかりにくい」といったご意見をいただいております。そこで、本年度の本館リニューアルを機に、館内での表示や刊行物における時代区分を、一般のお客様により親しみのある政治史区分での表記に統一することにいたしました。文化史・美術史による時代区分として、一五七三年~一六一五年を桃山時代としておりましたが、今後は一五七三年~一六〇三年を政治史区分による安土桃山時代とします。よって、江戸時代のはじまりを一六〇三年といたします。

館内の表示においては、9月1日から、またそれ以前に発行される印刷物についても、9月1日以降の展示情報を掲載する場合は、左記の時代区分によって表示することになりました。どうかよろしくご了承くださいませ。

東京国立博物館友の会 & パスポート

**友の会** 年会費 1万円 発行日から1年間有効  
**特典** 東京・京都・奈良国立博物館3館の平常展は何度でもご覧いただけます。特別展に関しては、観覧券を12枚配布。そのほか、本誌の定期郵送や、友の会対象のイベント・講演会の開催などさまざまな特典があります

**パスポート** 一般 3000円 学生 2000円  
 発行日から1年間有効  
**特典** 東京・京都・奈良国立博物館3館の平常展は何度でもご覧いただけます。特別展に関しては、各1回計6回までご覧いただけます

お申し込みは当館の窓口あるいは郵便振替で  
**友の会**

**加入者名(振替先)** 東京国立博物館友の会  
**口座番号** 00160-6-406616  
**金額** 1万円  
 \* 振替用紙には職業・年齢・性別・メールアドレス・ご希望のプレゼント番号(下記 ~ の中からお選びください)を楷書でご記入ください  
 双筆箋『秋冬山水図』 双筆箋『夏秋草図屏風』  
 一筆箋『見返り美人図』 クリアファイル&浮世絵ボールペン

**パスポート**

**加入者名(振替先)** 東京国立博物館パスポート  
**口座番号** 00120-3-665737  
**金額** 一般3000円、学生2000円  
 \* 振替用紙には申込区分(一般か学生) 学生の場合は学校名および学生証番号を楷書でご記入ください  
 \* 振替用紙の半券が領収書になります。会員証、パスポートチケットが届くまで保管しておいてください  
 \* 振替手数料はお客様の負担となります  
 \* 郵便振替でのお申込には2週間かかります  
**お問い合わせ**  
 TEL 03-3822-1111(代) 友の会・パスポート担当

東京国立博物館ニュース定期郵送のご案内

本誌の定期郵送をご希望の方は、年間(6冊分)1000円の送料・事務費のご負担でお届けします

お申し込みは郵便振替で  
**加入者名(振替先)** 東京国立博物館ニュース  
**口座番号** 00100-2-388101  
 \* 振替用紙には郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を楷書でご記入ください  
 \* お申し込みは1年ごととなります。複数年のお申し込みは受けられませんのでご了承ください  
 \* 振替用紙の半券が送料の領収書になります。1年間保管しておいてください  
 \* 振替手数料は申込者のご負担となります  
 \* 次号より送付ご希望の場合、締め切りは8月10日です

東京国立博物館利用案内

**開館時間**：9時30分～17時、4月～11月の特別展開催期間中の金曜日は20時まで、4月～9月の土・日・祝・休日は18時まで(入館は閉館の30分前まで)

**休館日**：毎週月曜日(祝日、休日の場合は翌日)、年末年始(12月28日～1月1日)、ゴールデンウィークおよび夏休み期間(7月20日～8月31日)は原則として無休

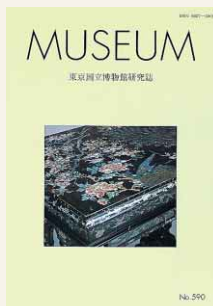
\* 7月1日～8月31日はリニューアルのため本館を全室閉館いたします

**平常展観覧料金**  
 一般420(210)円、大学生130(70)円  
 \*( )内は20名以上の団体料金  
 \* 障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください  
 \* 満65歳以上、および高校生以下の方の平常展観覧は無料です。入館の際に年齢のわかるもの(生徒手帳、健康保険証、運転免許証など)をご提示ください

劇団ク・ナウカが朝日芸術舞台賞受賞、館長を訪問  
 昨年当館で演劇を公演した劇団ク・ナウカが演劇・ダンスなどの優れた成果に対して贈られる「朝日芸術舞台賞」を、1月30日に受賞しました。昨年11月4日(火)～16日(日)の間、当館東洋館地下でも上演した「マハーバーラタ」の舞台成果を評価されたものです。  
 一、劇団ク・ナウカの演出家の宮城聡氏、女優の美加里氏、制作の久我晴子氏の三氏が受賞後、当館野崎館長を訪問されました。館長から、今回の受賞についてお祝いを述べた後、宮城氏から今回の「ク・ナウカ」の演出について工夫した点や、博物館での公演に際して、他の会場とは異なる楽しさがあったことなどをお話しいただきました。  
 ク・ナウカの公演については、昨年大変好評だったため、今年も10月上旬頃に当館で実施したいと考えております。スズジュールや公演名、チケット販売に関しては追って本誌および当館ホームページなどでお知らせする予定です。どうぞご期待ください。



左奥から、ク・ナウカの宮城聡氏、美加里氏、久我晴子氏。右奥から野崎館長、杉長営業開発部長



『MUSEUM』590号  
 (平成16年6月15日発行)の掲載論文  
 『博物誌資料としての『草花魚貝虫類写生図』』 磯野直秀(当館客員研究員)  
 『東京国立博物館新収資料』 田中純子(元白百合学園高等学校教諭)  
 『柏木探古稿本』 『東寺堂塔輿磨表并記事等雜記』 藤本孝一(文化庁)  
 表紙解説『花鳥螺細裁縫机』 小松大秀(当館上席研究員)  
 \* 購読のお問い合わせは当館ミュージアムショップ 03-3822-0088まで



Who's Who in 東博  
 子どもからお年寄りまで  
 みんなに「親しまれる博物館」へ  
 教育講座室 高梨真行

館内で行う講演会、列伝解説や各種講座および特別展開連イベントを企画・実施しています。東博はとにかく募集すると反響が大きいく応募数も多い。博物館の活動の中心は展示ですので、より楽しく鑑賞できるような内容を模索しています。幸い当館には美術・歴史・考古の各分野の専門家がおり、テーマの原案を決めたら内容の詳細をそれぞれの研究員と相談できるのは強みですね。今後は、より専門的な内容の講座も行ってみたいと思います。  
 自身の専門は日本中世史(戦国期の室町幕府)ですが、企画にあたってそれにこだわることとはありません。実施後のアンケートは貴重な資料、必ず目を通して次の企画の際に参考にします。この夏行う小学生向けの親子講座では、「ミイラ」と「はにわ」がテーマですが、これは児童・生徒の「見たい作品」にあがることが多いということで取りあげました。  
 参加者は常連の方も多いですが、中には八十歳を越えて初めて博物館に来たという方も。半年後に展示室ではったりお会いしたところ、講座に参加して以来興味をもって、しばしば通うようになったとのこと。リピーターを獲得したという実感を得了瞬間でした。これからも「親しまれる博物館」となるような企画を進めていきたいと思います。

1 THU	本館閉館 1 演劇公演「四谷怪談」19:30 <b>「日本美術の精華」</b>	表慶館
2 FRI	1 演劇公演「四谷怪談」20:00 14:30	表慶館
3 SAT	時間延長(18:00まで) 1 演劇公演「四谷怪談」18:00 14:30 15:00	表慶館
4 SUN	時間延長(18:00まで) 1 演劇公演「四谷怪談」18:00 1 演劇公演「四谷怪談」18:00 14:00 平成館大講堂 表慶館	平成館大講堂 表慶館
5 MON	休館日 1 演劇公演「四谷怪談」19:30	表慶館
6 TUE	<b>「世紀の祭典 万国博覧会の美術」</b> 列品解説「ベゼクリク石窟の美術」14:00 1 演劇公演「四谷怪談」19:30 東洋館第10室 表慶館	東洋館第10室 表慶館
7 WED	14:30 15:00 14:00 1 演劇公演「四谷怪談」19:30	表慶館
8 THU		
9 FRI	1 ヘンデルとモーツァルトのタベ 19:00 夜間開館 20:00まで) 14:30 14:00	表慶館
10 SAT	時間延長(18:00まで) 15:00	
11 SUN	時間延長(18:00まで) 14:30 14:00	
12 MON	休館日	
13 TUE	列品解説「中国新石器時代の玉器」14:00 東洋館第4室	
14 WED	14:30 15:00 14:00	
15 THU		
16 FRI	夜間開館(20:00まで) 14:30 14:00	
17 SAT	親子のギャラリー「文字・もじ・モジ」時間延長(18:00まで) 2 夏期講座「万国博覧会の美術」14:30 15:00	
18 SUN	時間延長(18:00まで) 14:30 14:00 2 夏期講座「万国博覧会の美術」	
19 MON	時間延長(18:00まで) ファミリーコンサート 11:00、14:00 平成館ラウンジ	平成館ラウンジ
20 TUE	列品解説「中世の古記録について」 14:00 法隆寺宝物館エントランス	法隆寺宝物館エントランス
21 WED	14:30 15:00 14:00	
22 THU	14:00 6 親子講座「ミイラって何? 古代エジプトの生と死」 13:30 資料館セミナー室	資料館セミナー室
23 FRI	夜間開館 20:00まで) 14:30 14:00	
24 SAT	3 記念講演会「万国博覧会の中の西洋美術-パリ万博を中心として-」 時間延長(18:00まで) 15:00 13:30 平成館大講堂 7 「とうはく書道道場」11:00 14:00 東洋館地下	平成館大講堂 東洋館地下
25 SUN	時間延長(18:00まで) 14:30 14:00	
26 MON		
27 TUE	<b>特別公開「国宝 吉祥天画像」</b> 列品解説「印籠・根付を愉しむ」14:00 平成館小講堂 7 「博物館探検:探してみよう! 文字・もじ・モジ」11:00 東洋館地下	平成館小講堂 東洋館地下
28 WED	14:30 15:00 14:00	
29 THU	薬師寺僧侶による吉祥天の話 14:00 11:00、12:00、13:00、14:00、15:00 表慶館	表慶館
30 FRI	夜間開館 20:00まで) 14:30 14:00	
31 SAT	時間延長(18:00まで) 15:00 月例講演会「大谷探検隊の足跡」13:30 平成館大講堂 7 「とうはく書道道場」11:00 14:00 東洋館地下	平成館大講堂 東洋館地下

1 SUN	薬師寺僧侶による吉祥天の話 時間延長(18:00まで) 14:30 11:00、12:00、13:00、14:00、15:00 14:00 表慶館	表慶館
2 MON		
3 TUE	列品解説「器材を模した埴輪」14:00 平成館考古展示室 7 「文字をかざろう」13:30 東洋館地下	平成館考古展示室 東洋館地下
4 WED	14:30 15:00 6 親子講座「こどもはにわランド」13:30 資料館セミナー室	資料館セミナー室
5 THU	薬師寺僧侶による吉祥天の話 14:00 11:00、12:00、13:00、14:00、15:00 表慶館	表慶館
6 FRI	夜間開館 20:00まで) 14:30	
7 SAT	時間延長(18:00まで) 14:30 15:00 14:00 4 記念講演会「薬師寺の歴史と文化」13:30 平成館大講堂 7 「文字をかざろう」13:30 東洋館地下	平成館大講堂 東洋館地下
8 SUN	時間延長(18:00まで) 14:30	
9 MON		
10 TUE	7 「博物館探検:探してみよう! 文字・もじ・モジ」 11:00 東洋館地下	東洋館地下
11 WED	14:30 15:00 14:00	
12 THU	薬師寺僧侶による吉祥天の話 14:00 11:00、12:00、13:00、14:00、15:00 表慶館	表慶館
13 FRI	夜間開館 20:00まで) 14:30 14:00	
14 SAT	時間延長(18:00まで) 15:00 14:00 5 記念講演会「万国博覧会と日本工芸 東西が出会った」13:30 7 「とうはく書道道場」11:00 東洋館地下 平成館大講堂	平成館大講堂 東洋館地下
15 SUN	時間延長(18:00まで) 14:30 14:00 薬師寺僧侶による吉祥天の話 11:00、12:00、13:00、14:00、15:00 表慶館	表慶館
16 MON		
17 TUE	7 「文字をかざろう」13:30 東洋館地下	東洋館地下
18 WED	14:30 15:00 14:00	
19 THU	薬師寺僧侶による吉祥天の話 14:00 11:00、12:00、13:00、14:00、15:00 表慶館	表慶館
20 FRI	夜間開館 20:00まで) 14:30 14:00	
21 SAT	時間延長(18:00まで) 14:30 15:00 14:00 月例講演会「広開土王碑をめぐる諸問題」13:30 平成館大講堂 7 「とうはく書道道場」11:00 東洋館地下	平成館大講堂 東洋館地下
22 SUN	<b>「国宝 吉祥天画像」最終日</b> 時間延長(18:00まで) 14:30	
23 MON		
24 TUE	7 「博物館探検:探してみよう! 文字・もじ・モジ」 11:00 東洋館地下	東洋館地下
25 WED	14:30 15:00 14:00	
26 THU	14:00	
27 FRI	夜間開館 20:00まで) 14:30 14:00	
28 SAT	テーマ別講演会「日本の水墨画」桃山江戸初期の水墨画-狩野派を中心に- 時間延長(18:00まで) 15:00 13:30 平成館大講堂 7 「博物館探検:探してみよう! 文字・もじ・モジ」11:00 東洋館地下	平成館大講堂 東洋館地下
29 SUN	<b>「文字・もじ・モジ」最終日</b> 時間延長(18:00まで) 14:30 <b>「世紀の祭典 万国博覧会の美術」最終日</b> 14:00	
30 MON		
31 TUE	<b>「日本美術の精華」最終日</b> 14:00 平成館寄贈品展示室 本館閉館 列品解説「重要文化財 霊雲寺蔵 十六羅漢像について」	平成館寄贈品展示室

1は有料イベントです。詳しくは、本誌14ページをご覧ください。  
 2-5は事前申込制です。6は親子講座(事前申込制)です。詳しくは本誌7ページをご覧ください。  
 7は親子のギャラリー「文字・もじ・モジ」ワークショップ(事前申込制)です。詳しくは本誌7ページをご覧ください。  
 \*上記の予定は予告なく変更になることがあります。当日の予定は、インフォメーションカウンターでご確認ください。

🌳 = ボランティアによる樹木ツアー 場所: 前庭内  
 🔍 = ボランティアによる考古展示室ガイド 場所: 平成館考古展示室  
 🏛️ = ボランティアによる法隆寺宝物館ガイド 場所: 法隆寺宝物館  
 🗺️ = ボランティアによるハイライトツアー 場所: 平成館寄贈品展示室  
 📖 = ボランティアによる浮世絵版画展示解説 場所: 平成館寄贈品展示室  
 👨👩👧👦 = 親子のギャラリー「文字・もじ・モジ」ワークショップ

東京国立博物館「ユース第666号」平成16年7月1日発行(隔月1回奇数月発行) 編集/東京国立博物館広報室 C 東京国立博物館  
 〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 TEL:03-3822-1111(大代表) \*ホームページ URL: http://www.tnm.jp/ 独立行政法人国立博物館ホームページ URL: http://www.natmus.jp/ 制作・印刷/株ONPアーカイブ・コム